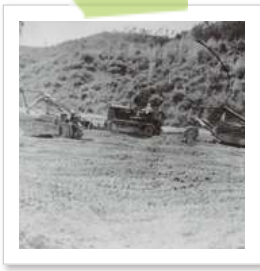


近代工学を取り入れたアースダム

船木池

船木池は非かんがい期に水を蓄える「補助池」として建設されました。船木池は堤高31mのアースフィルダムで、当時の土木技術でその高さは不可能とされていました。独自に土質管理規定を樹立し、締め固めにタイヤローラーを使い、乾燥密度と締め固め度合いを測定する装置が登場するなど、近代工学を取り入れたアースフィルダム建設のモデルとして全国に知られています。



土の締め固めの様子
大型機械で十分に締め固められました



建設中の余水吐の様子
曲線部も丁寧に形づけられています

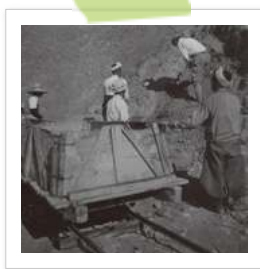


トンネル部土砂搬出の様子
トンネルも木で支えられています。作業は危険と隣り合わせです

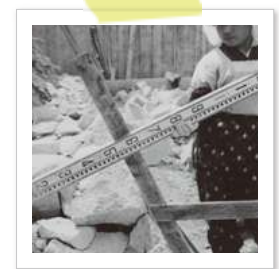


土砂運搬の様子
スコップで土をトラックに載せています

土の締め固めの様子
機械に農林省という文字が見えます。当時農林省が機械を所管していました



石積み勾配を測っている様子
作業をする女性はほおかむりに着物姿です



土木技術の粋を集結した

安政池

安政池は第2の補助池として建設されました。旧安政池は江戸時代に築造され、松沢地区により管理されていました。そこで奥の池と重ね池になっているものを合わせて7倍の大きいダムに建設されました。建設は土を最適な含水比(湿り具合)に保ったものを締め固めました。土掘り、積み込み、運搬、まきだしができる万能機械モータースクレーパーができ、作業効率は飛躍的に向上しました。この池では斜樋管工法、トンネル式余水吐など、珍しい工事が目立った当時の土木技術の粋を集めたダムとなりました。

砂岩層の切上げ作業の様子
人力で行っています

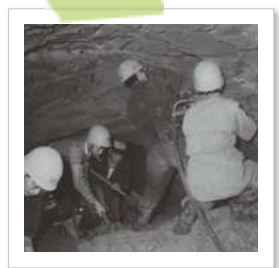
杭打ちの様子
軟弱地盤改良のため木杭を打っているところ



堤体の締固め様子
大型作業機械が効率的に仕事をこなしました



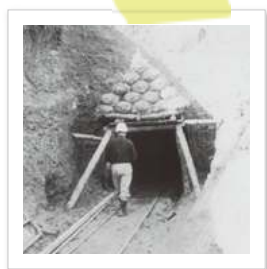
安政池バイパス



旧安政池



旧安政池



安政池バイパス入り口



資材の運搬の様子